

# 中国語学専攻

## Chinese Studies



本専攻では学部で培った知識を基とし、語学または文学・文化の側面から研究を行います。語学研究では、いわゆる古典以外のものを研究対象とするよう指導しており、具体的には、唐宋代以後の白話及び現代漢語(方言を含む)を対象としています。文学・語学のいずれを専攻するにしても、自分の専門以外の知識も幅広く身につけ、将来いわゆるSinologistに一步でも近づくことを目指して勉強しています。

Based on the knowledge acquired in the undergraduate course, students conduct research from linguistic or literary-cultural aspects. In their language studies, students are expected to focus on written language after the Tang-Song era in addition to modern Chinese, including dialects as their research subjects rather than the classics. Whichever course is chosen, students are expected to take step toward becoming professional Sinologists.



### 研究指導担当教員 Faculty

任 鷹 (にん よう) Ying REN

●教授/Professor

現代中国語文法を研究している。とりわけシンタックス及び意味論の研究が中心である。

Research interest includes syntax, semantics, and the studies of writing

下地 早智子 (しもじ さちこ) Sachiko SHIMOJI

●教授/Professor

印欧語がセンテンス指向型の言語であるのに対して、日本語や中国語は談話指向型、語用論指向型の言語であるといわれることがあります。ともに談話指向型であり、漢字を有することなどから、日本人にとって中国語は極めて親しみやすい言語であると言えます。しかし、そんな中国語にも日本語からは考えられないような文法現象が多く存在するようです。何が異なるのか、なぜ異なるのかを考えることが私の課題です。

Chinese Linguistics. Contrastive analysis of contemporary Mandarin Chinese and Japanese with emphasis on grammar and semantics.

**竹越 孝** (たけこし たかし) Takashi TAKEKOSHI  
●教授/Professor

中国語歴史文法を研究している。特に元・明・清代における中国語北方方言の変遷過程をアルタイ諸語との接触という観点から分析し直すことを主眼として、中国語とモンゴル語、満州語、朝鮮語などとの対音・対訳資料を用いた研究を行っている。

Chinese historical grammar, specially based on materials outside of China in Yuan, Ming and Qing dynasty.

**濱田 武志** (はまだ たけし) Takeshi HAMADA  
●准教授/Associate Professor

中国語(漢語系諸語)の諸変種の成立過程について、音韻史と方言学の観点から研究している。また、言語史研究の方法論、特に、宋元代の音韻資料に基づく実証的な研究と、現生の変種同士の系統関係を推定する手法とを相互補完することについても強い関心を持っている。

Chinese historical phonology and dialectology, especially materials in Song and Yuan dynasty and modern variants of Sinitic.

**秦 兆雄** (しん ちょうゆう) Zhaoxiong QIN  
●教授/Professor

中国社会・文化の理解にとって極めて重要な柱である家族・親族・婚姻・死生観について、その実態と理念及び現代的な諸変化を、実地調査に基づいて実証的に解明しようとしている。また、日本との比較の視点から、今後の中国社会秩序の変動や再構築などを考える上で、宗教や民族などの諸問題がいかに重要な要素になるのかに注目しつつ、都市化やグローバル化などの変動過程において、家族・親族関係がどのように社会保障制度として機能し、文化資源として活用されるのか、都市と農村の格差とそれに起因する人口移動や計画出産問題と関連する少子高齢化問題がいかに重要な要素になるのか、などについても論じている。

My main research, which is based upon fieldwork, compares the Chinese and Japanese systems and cultures of marriage, family, and religion.

**櫻井 次郎** (さくらい じろう) Jiro SAKURAI  
●教授/Professor

中国の環境問題および持続可能な発展について法的・政治的視点から考察している。現在の中国では、経済成長と社会的安定を最優先する国家運営の在り方が環境政策に限界を与え、環境公害を深刻化させている。この環境問題の解決の道筋・方策を、中国の研究者や実務家らとともに探っていきたいと考えている。

Chinese Environmental Law, Environmental Policy, Sustainable Development.

**紺野 達也** (こんの たつや) Tatsuya KONNO  
●准教授/Associate Professor

唐宋期の詩文、特に盛唐期の王維の詩歌とその受容を研究することにより、「園林」(荘園・庭園)を中心に地域・風土・風景と文学との関係を考えています。また、広く東アジアにおける漢文学、漢文資料の流通といった問題にも関心を持っています。

Chinese Classical Literature, especially poetry and prose in Tang and Song dynasty

**津守 陽** (つもり あき) Aki TSUMORI  
●准教授/Associate Professor

中国近現代文学、特に沈從文を中心に、〈郷土〉概念の形成と、それをめぐる文学表象について研究している。一種の共同幻想としての「ふるさと」「いなか」イメージは、近代中国だけではなく、日本を含む世界各国で様々に変異しながら盛んに生み出され、今も我々の世界観に影響を与えている。その〈郷土〉をつづることばのあり方について、関連する近現代の思想潮流と絡めながら研究している。

Modern Chinese Literature, Literary Representations of the Native Place, Shen Congwen

**最近の修士論文等のテーマ Recent Master's Thesis Subjects**

- ・蘇軾の孤独意識について
- ・白居易氏の俸禄表現について
- ・結果補語の誤用分析—日本語を母語とする中国語学習者を対象として
- ・汉语双重否定式的功能分析
- ・現代中国語における三人称代名詞の非指示的用法について
- ・現代中国語の因果を表す接続詞“因为(～の原因で)”と“由于(～の由に)”に関する一考察
- 「発話領域」(Sweetser, E. 1990)の観点から
- ・近代中国におけるピジンの比較研究 —人称代名詞を中心に—

**院生紹介**  
Message from a Student

—なぜ修士課程に進学しようと思いましたか。

16歳の時、台湾の高等専門学校で日本語を専攻し、日本語や日本文化に興味を持ち始めました。大学に進学した後も日本語を専門に選びました。その間、日本の言語や文化に触れ、いつか必ず日本で暮らしてみたいと憧れました。大学を卒業後、一旦就職しましたが、知識の不足を感じ、留学することを決意しました。

—なぜ神戸市外国語大学の大学院を選んだのですか。

進学を決意してから、台湾で色々な日本の大学の情報を調べたら、神戸市外国語大学の大学院の資料と先生方の専門分野は、自分の研究したいテーマに合致していると思い、最初は研究生として一年間神戸市外大に通いました。研究生の一年間では、ますます神戸市外大は私にとって理想的な環境だと確信し、修士課程の入試を受験しました。

—修士課程進学を考えている方にメッセージをお願いします。

自分の専門分野を更に深めたい方にとっては、もちろん進学することをお勧めします。海外にいる方や、日本に来たばかりの方にとっては、得られる情報はかなり有限であり、慣れない土地での生活に対する不安もきつ々しいと思います。私も最初はそんな不安と迷いの中で、単身で日本へ留学に来ました。幸い、本学では研究生という制度があり、一年目はまず研究生として、専門知識に対する基礎を築き、環境に馴染んでから、院生に進学することができました。現に私は、自分が神戸市外大への進学を選んだことをありがたく思っています。もしあなたが修士課程進学を迷っておられたら、一歩進んで、まずは実際に日本の大学院での留学生生活を体験するのはいかがでしょうか。言語学、文化、言語教育などの分野で造詣を深めたい方でしたら、ぜひ本学で一緒に学びましょう。



蔡 宜霖 (2年)  
TSAI Yi Lin